

閉会中の調査報告

産業経済常任委員会

日 時	平成 30 年 8 月 6 日（月）午前 9 時 32 分～午前 11 時 23 分
場 所	湖南市役所東庁舎 4 階 第 3 委員会室
出席者	菅沼委員長、松井副委員長、植中委員、桑原田委員、 堀田委員、大島委員、松原議長
説明者	なし
議事案件	事務事業評価について ① 市民農業塾実践編実施事業 ② 産学官連携事業

事業名	市民農業塾実践編実施事業
市事業費	849 千円
委員評価	委員：「市実施、手法見直しで民間委託を行うべき」で、販売経路の拡大を調査研究すべき。 委員：「市実施、現行通り、拡大でこのままほぼ現行どおり」で、今後も継続的な事業やフォローをしていくべき。 委員：「市実施、現行通り、拡大でこのままほぼ現行どおり」、事業拡大で消費者ニーズに基づいて作物（花、果樹など）の多様化が必要。 委員：「抜本見直し、全体的なビジョン、考えを整理すべき」で、プロ農家の育成と市民農業（老、福）の線引きを行うべき。 委員：「市実施、内容規模見直しで利用ニーズを調査すべき」で、流通システムを研究する必要がある。 委員：「市実施、手法見直しで民間委託を行うべき」で交付金認定が終わった後も継続すべき事業で新規就農へとつながる支援をおこなうべき。
まとめ	仕分け 5：市実施、手法見直し 地方創生加速化交付金を活用した市独自の事業で平成 30 年度、31 年度と実施する予定の事業。改善すべき点としては、専門農業と市民農業（老、福）との線引きを意識すること、生産作物の流通システムも研究すること、費用対効果を高めるため広報を充実すること、花、果物などの講習も検討すべきことが挙げられ、継続実施される中で留意されたい。 平成 32 年度以降は民間委託の可能性を含め、市として継続実施を行うべきである。みらい公園こなん事業は、市にとって大規模投資事業であるため、負荷にならないよう明確な効果を得ることのできる事業として期待している。

事業名	産学官連携事業
市事業費	3,499 千円
委員評価	<p>委員：「市実施、手法見直しで民間委託を行うべき」で、販売経路の拡大を調査研究すべき。</p> <p>委員：「市実施、手法見直しで民間委託を行うべき」で、湖南省産の作物を増やす目標を明確化すべき。また養蜂については加工品開発や花畑の充実など景観、観光などへの波及も考えられる。学生のまちづくりへの参画も促すべき。</p> <p>委員：「市実施、現行通り、拡大でこのままほぼ現行どおり」で、事業費の内訳については市の十分な精査が必要である。</p> <p>委員：「市実施、手法見直しで民間委託を行うべき」で、民間との連携を強化し方向性を考えるべきである。</p> <p>委員：「市実施、手法見直しで民間委託を見直すべき」で、大学との連携であることをアピールすべき。エンサイの料理法などの研究も。委託先を検討すべき。</p> <p>委員：「市実施、手法見直しで民間委託を行うべき」で、調査研究は広域で行うことが効果的では。農業経営を可能とするために産主導で行うべき。</p>
まとめ	<p>仕分け5：市実施、手法見直し</p> <p>地方創生加速化交付金を活用した市独自の事業で平成30年度、31年度と実施する予定の事業。改善すべき点としては、学生主導ではなく、市が求めるものを共同で見出すこと、市と大学との連携をさらに密とし市内イベント等への参画を促すこと、広報活動を強化すること、産業との連携を重要視すること、事業費の内訳について市が精査することが挙げられ、継続実施される中で留意されたい。</p> <p>平成32年度以降は民間委託とし、産業主導のもとで実施し、市の新たな農業産業として確立されていくことを期待する。また、景観や観光との相乗効果を探求することや花、果物等の農業産業化など今後の調査研究においては近隣市町や県との連携を密にし、広域で効率よく探究することが望ましい。</p>